

令和5年度

加茂市内遺跡確認調査報告書

釜 淵 遺 跡

鬼 倉 遺 跡

2024

新潟県加茂市教育委員会

令和5年度

加茂市内遺跡確認調査報告書

釜 淵 遺 跡

鬼 倉 遺 跡

2024

新潟県加茂市教育委員会

序

豊かな自然環境に恵まれた北越の小京都、加茂市には、今日までに 177 か所の周知された埋蔵文化財包蔵地が存在します。古くは旧石器時代までさかのぼり、現代まで連綿と歴史がつながり、今の私たちが生活していることを教えてください。

発掘調査によって、はるか昔の人々の暮らしや社会を考える上で貴重な成果が得られています。それらは、市内各所で計画された開発事業を原因とした発掘調査で、遺跡を記録保存してきたことによります。

その発掘調査に先立って、加茂市では平成 7 年度から、埋蔵文化財包蔵地周辺で計画される大小様々な開発事業に対して、事前に内容を把握し、開発事業との調整を行うための試掘・確認調査事業を国庫補助金と県費補助金を得て実施しています。

令和 5 年度は 2 遺跡を対象とした確認調査を実施しました。本書はその調査結果報告書です。本書が地域史を語る資料として活用され、埋蔵文化財に対する理解が深まれば、この上なく幸せであります。

最後に、発掘調査に対して様々なご指導とご協力を頂いた新潟県観光文化スポーツ部文化課、調査に参加された作業員の方々、地権者および工事関係者に対し、ここに深甚なる謝意を表する次第であります。

令和 6 年 7 月

加茂市教育委員会

教育長 山 川 雅 己

例 言

- 1 本報告書は、令和5年度に新潟県加茂市内の各種開発に伴い実施した2遺跡における確認調査の記録である。
- 2 調査は釜淵遺跡が民間開発、鬼倉遺跡が農業用排水路改良工事に伴い実施したものである。
- 3 確認調査の経費は、国庫および県費の補助金交付を受けた。
- 4 調査は加茂市教育委員会が主体となり実施した。調査体制（令和5年度）は以下の通りである。

調査主体	加茂市教育委員会	教 育 長	山川雅巳
総 括		社会教育課長	有本幸雄
庶 務		社会教育課主査	吉田如菜
調査担当		社会教育課課長補佐	伊藤秀和
調査補助員		会計年度任用職員	鈴木 進
現場作業員	石森一二三・井上 巖・樋口 清（公益社団法人加茂市シルバー人材センター会員）		
- 5 調査記録図面・写真類は一括して加茂市教育委員会が保管している。
- 6 本書で示す方位はすべて真北である。
- 7 挿図に使用した既存図面については、その出典を記した。
- 8 引用・参考文献は著者と発行年（西暦）を〔 〕で文中に示し、巻末に一括して掲載している。
- 9 本報告書の執筆と編集はすべて伊藤秀和が行った。
- 10 挿図、写真図版の版組みおよび全体のデジタル編集・データ化は、（有）不二出版に委託し、完成データを印刷業者へ入稿して印刷した。
- 11 発掘調査から本書の作成に至るまで、下記の諸氏から多大な御教示・御協力を賜った。厚く御礼申し上げる次第である。（敬称省略・順不同）
（公社）加茂市シルバー人材センター・（株）ジョブ・（株）涌井建設工業・加茂郷土地改良区
新潟県観光文化スポーツ部文化課・加茂市文化財調査審議会

目 次

第Ⅰ章 序 説	1
1 令和5年度事業の概要	1
2 遺跡の位置と環境	1
第Ⅱ章 民間開発関連	3
1 調査に至る経緯	3
2 釜淵遺跡	3
(1) 遺跡と確認調査の概要	3
(2) 層 序	4
(3) 遺構と遺物	4
(4) 調査のまとめ	4
第Ⅲ章 農業基盤整備事業関連	5
1 調査に至る経緯	5
2 鬼倉遺跡	5
(1) 遺跡と確認調査の概要	5
(2) 層 序	6
(3) 遺構と遺物	6
(4) 調査のまとめ	6
第Ⅳ章 ま と め	7
1 令和5年度調査について	7
《引用・参考文献》	7
《報告書抄録》	巻末

挿 図 目 次

第 1 図	確認調査実施道跡と本書関連道跡位置図	2	第 4 図	釜淵道跡確認調査トレンチ土層柱状図	4
第 2 図	釜淵道跡推定範囲と調査対象地位置図	3	第 5 図	鬼倉道跡推定範囲と調査対象地位置図	5
第 3 図	釜淵道跡確認調査トレンチ位置図	4	第 6 図	鬼倉道跡確認調査トレンチ位置図	6
			第 7 図	鬼倉道跡確認調査トレンチ土層柱状図	6

表 目 次

第 1 表	令和 5 年度発掘調査工程表	1
-------	----------------	---

写真図版目次

写真図版 1 【釜淵道跡】

調査地近景（南から）

1 トレンチ 調査風景（北東から）

1 トレンチ 土層断面（南西から）

3 トレンチ 土層断面（南西から）

調査地近景（西から）

4 トレンチ 調査風景（北から）

2 トレンチ 土層断面（南西から）

4 トレンチ 土層断面（南西から）

写真図版 2 【鬼倉道跡】

調査地近景（北から）

2 トレンチ 調査風景（北東から）

1 トレンチ 土層断面（北西から）

3 トレンチ 土層断面（北西から）

調査地近景（北西から）

4 トレンチ 調査風景（東から）

2 トレンチ 土層断面（北西から）

4 トレンチ 土層断面（北西から）

第Ⅰ章 序 説

1 令和5年度事業の概要

現在までに加茂市で確認、周知化された埋蔵文化財包蔵地は177か所ある。これは、これまでに2回実施された組織的な詳細分布調査の成果でもある。ひとつは昭和60・61年度の七谷地区を対象に行われた東部地区詳細分布調査〔川上・長谷川ほか1987〕、もうひとつが平成7年に新潟県教育委員会主催で主に沖積地を対象にして実施された詳細分布調査である。今日、この成果に基づき官民の各種開発事業との協議・調整が行われている。

加茂市では平成4年に埋蔵文化財専門職員を1名採用し、当時喫緊の課題であった遺跡の発掘調査に対応してきた。平成9年から平成19年頃までバイパス建設や圃場整備事業、令和2年度から今年度にかけては市道建設など大規模な公共工事に伴う発掘調査が行なわれたが、いずれも平成7年度から国庫補助事業として開始した市内遺跡試掘・確認調査を行った後のことである。なお、既往の発掘調査で報告書が未刊行であったものについては、『加茂市史 資料編4 考古』〔加茂市史編集委員会2016〕に概要が記載され、主要な調査成果はひととおり公となっている。

令和5年度の確認調査は、民間の宅地造成事業と加茂郷土地改良区による農業用排水路改良工事に伴い2遺跡を対象に実施した。このほかに、平成28年度から開始した剣ヶ峰城跡の地形測量に伴う遺構の写真撮影を実施した。また、花立遺跡も昨年度に引き続き、本調査を実施した。

遺跡名	調査	調査原因	遺跡の 主な時代	※現場調査期間													備考
				4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3		
釜淵遺跡	確認	民間開発(店舗建設)	古墳～古代	■													
鬼倉遺跡	確認	農業用排水路改良工 事	古墳～古代												■		
剣ヶ峰城跡	確認	保存目的の学術調査	中世											■			本書未収載
花立遺跡	本調査	道路建設工事	古墳・古代							■	■	■					本書未収載

第1表 令和5年度発掘調査工程表

2 遺跡の位置と環境 (第1図)

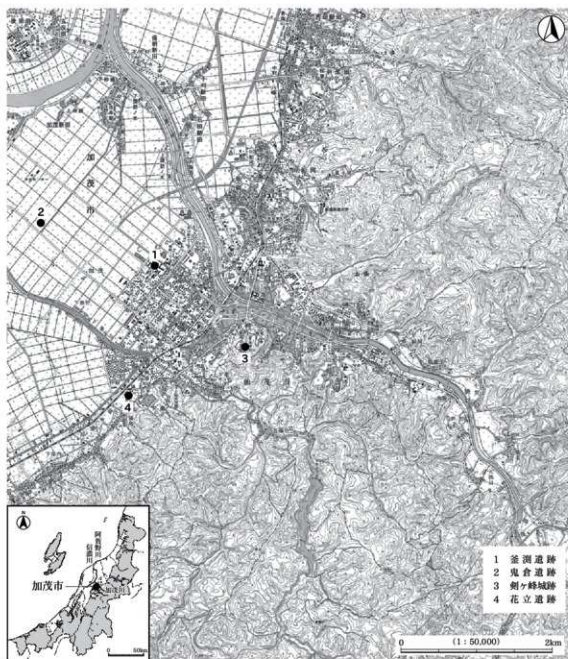
加茂市は新潟県のほぼ中央の県央域に位置する。市域周辺は田上町、五泉市、新潟市南区(旧、白根市)、三条市と接する。東部に高さ1,000mを超える粟ヶ岳、権ノ神岳などの山岳が聳え、粟ヶ岳を源とする加茂川は上流部で小乙川、高柳川、大谷川などの支流を集め、谷底平野を縦貫し、加茂新田地区で信濃川に合流する地勢を持つ。一級河川加茂川の流域延長は約11kmである。

加茂川上流部は「七谷」地区と呼ばれ、加茂川およびその支流が小規模な段丘を形成し、旧石器時代～縄文時代の遺跡がその段丘上に多く分布する。一方、弥生時代～古代の遺跡は極めて少なく、中世になると小規模な山城や信仰関連遺物が多く確認され、再び遺跡数が増加する。一方、加茂川が東山丘陵を抜けた市街地域には扇状地形が形成され、下条川流域右岸で突如、弥生時代後期後半の集落(中沢遺跡)が出現する。

2 遺跡の位置と環境

また、沖積地では古墳時代前期と後期に一段と集落が広範囲に展開し、その後若干の空白期間を挟んで、奈良・平安時代の大規模な遺跡（馬越遺跡など）が成立する。中世の集落遺跡は調査された事例が少なく詳細は不明である。

釜淵遺跡（1）は加茂市役所庁舎南側の市街地の一角にある。既往の調査では古墳時代前期～中世の生活痕跡が確認されている。鬼倉遺跡（2）は、下条川右岸の沖積地に位置する。既往の調査では平安時代の集落跡が確認されている。剣ヶ峰城跡（3）は加茂城跡の西側に連なる標高約110mの尾根上にある戦国期の山城で、带状に連なる曲輪の要所に堀切が配置されている。花立遺跡（4）は東山丘陵の縁辺部で扇状地の端部に位置し、緩傾斜地となっている。現況は畑や水田で標高は約12mである。古墳時代前期と平安時代の集落が発掘調査されている。



第1図 確認調査実施遺跡と本書関連遺跡位置図 (S=1:50,000)

(国土地理院 平成14年発行「加茂」・平成22年発行「矢代田」 S=1:25,000 参照)

第Ⅱ章 民間開発関連

1 調査に至る経緯

令和5年2月に(株)ジョブの担当者から宅地造成工事について相談を受けた。計画地は周知の遺跡である釜淵遺跡の推定範囲内にいること、平成6年に同地の隣接地で、発掘調査が行われ、古墳時代前期と後期の集落遺跡が確認されたこと、予定地では事前に確認調査が必要なことなどを説明し、了解を頂いた。この時点では調査予算がなく、新年度に入って早々に実施することで合意し準備に入った。

その後、令和5年3月13日付けで(株)ジョブの代表取締役 藤田文夫氏から市内遺跡試掘・確認調査についての依頼文が土地所有者1名の承諾書を添えて、市教委教育長宛てに提出された。開発面積は約1,974m²で、調査対象地の中央に計画された道路部分約427m²に対しての調査を希望するものであった。

文化財保護法第99条第1項の規定による埋蔵文化財発掘調査の着手報告について、令和5年4月3日付け民資第25号で新潟県知事宛てに提出し、確認調査を実施した。

2 釜淵遺跡

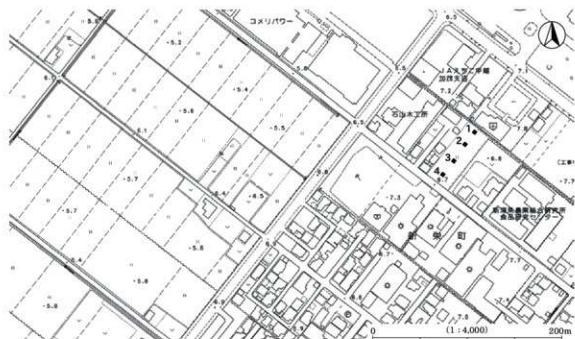
(1) 遺跡と確認調査の概要(第2・3図)

釜淵遺跡は加茂川左岸の沖積地に位置する。市役所の南側にあり、付近一帯は市街地化が進んでいる。昭和50年代に行われた下水道工事の際に古式土師器が採取され、民俗資料館に保管されていた。遺跡は、その資料から平成4年に周知化された。平成6年に民間開発に伴い、約3,150m²が発掘調査され、上層で古墳時代後期～近世の遺構、下層で古墳時代前期の遺構が確認された〔尾崎・伊藤2016〕。遺物包含層は上層が標高約5.5m、下層が約4.5mにある。



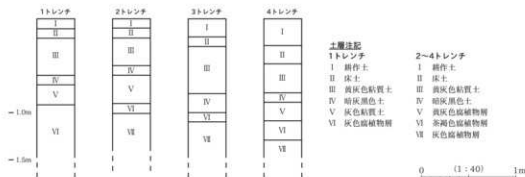
第2図 釜淵遺跡推定範囲と調査対象地位置図 (S=1:10,000)

(加茂市 令和6年印刷(加茂市街図1) S=1:10,000 原図)



第3図 釜淵遺跡確認調査トレンチ位置図 (S=1:4,000)

(加茂市 令和6年印刷 [加茂市都市計画基本図Ⅷ-DF812] S=1:2,500 原図)



第4図 釜淵遺跡確認調査トレンチ土層柱状図 (S=1:40)

確認調査は、令和5年4月5日に行った。宅地造成工事計画予定地の道路部分を対象に、任意にトレンチを設定し、重機により約2.7m×2.8mの大ききで4か所掘削し、遺構・遺物の検出および土層堆積の確認を行った。埋戻しは、掘削土を点圧しながら埋め戻した。

(2) 層序 (第4図)

基本土層は、1～4トレンチでI～IV層までは同じで、I層耕作土、II層床土、III層黄灰色粘質土、IV層暗灰色土が堆積する。V層以下が1トレンチと2～4トレンチで異なるが、基本的に腐植物層が顕著となる。一帯が湿地であったと推測される。遺物包含層および遺構確認面は掘削した深度の中では確認できなかった。

(3) 遺構と遺物

遺構・遺物は認識できなかった。

(4) 調査のまとめ

今回の掘削深度の中では遺跡は確認できなかった。堆積する土層から本区域は低湿地であったことが想定され、遺跡は確認できない。よって工事による埋蔵文化財への影響はないものと判断できる。

第三章 農業基盤整備事業関連

1 調査に至る経緯

令和5年度は加茂郷土地改良区による農業用排水路改良工事に伴い、鬼倉遺跡を対象とした確認調査を行った。事業者から7月に工事予定区域が示され、周知範囲内の工事であることから確認調査を行うこととした。施工業者が決まった10月以降から協議を行い、冬場施行を確認し、業者と連絡・調整を行い、準備を行った。

文化財保護法第93条第1項の規定による埋蔵文化財発掘の届出について、加茂郷土地改良区理事長から令和5年9月20日付け加土改第144号で新潟県知事宛てに提出された。これを受けて市教委では、埋蔵文化財の発掘について、令和5年9月20日付け民資第56号で確認調査が必要であると副申した。そして、新潟県知事から令和5年10月10日付け文第913号で市教委教育長に対し、確認調査実施の指示文が発出された。

その後、文化財保護法第99条第1項の規定による埋蔵文化財発掘調査の着手報告について、令和6年1月17日付け教社第6号で新潟県知事宛てに提出し、確認調査を実施した。

2 鬼倉遺跡

(1) 遺跡と確認調査の概要（第5・6図）

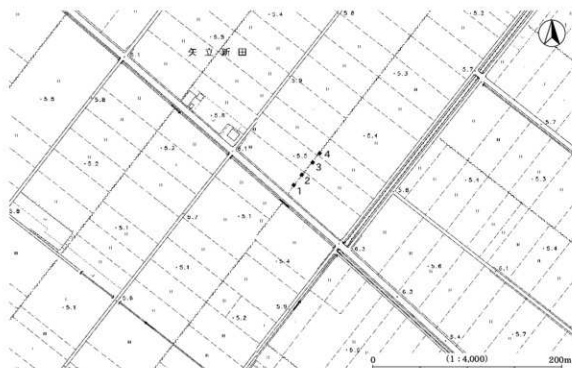
鬼倉遺跡は下条川右岸で現況水田地帯の沖積地に位置する。遺跡は平成7年の詳細分布調査により発見され、平成9年に国道403号線道路改良工事に伴い約1,870m²が発掘調査された。9世紀前半を中心とした集落跡が確認され、120点近い墨書土器や石帯、和同開珎、神功開寶などの稀少遺物が出土し、平安時代前期に新たに沖積地の開発を進めた集落の一つと考えられている〔伊藤2001〕。



第5図 鬼倉遺跡推定範囲と調査対象地位位置図（S=1：20,000）

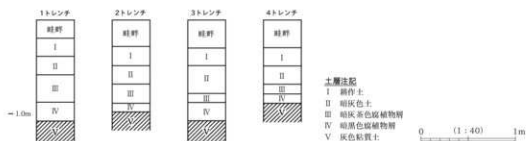
（加茂市 令和6年印刷〔加茂市街図1〕 S=1：10,000 原図）

2 鬼倉遺跡



第6図 鬼倉遺跡確認調査トレンチ位置図 (S=1:4,000)

(加茂市 令和6年印刷) (加茂市都市計画基本図面・DFR11・812) S=1:2,500 原図)



第7図 鬼倉遺跡確認調査トレンチ土層柱状図 (S=1:40)

確認調査は、令和6年2月2日に行われた。工事計画予定地内に任意にトレンチを設定し、重機により約1.2m×1.5mの大きさで4か所掘削し、遺構・遺物の検出および土層堆積の確認を行った。掘削の深度は排水路改良工事の最深部を大きく超えない程度とした。

(2) 層序 (第7図)

基本土層は、1～4トレンチで同様である。盛土(畦畔)の下にI層水田耕作土、II層暗灰色土、III層暗灰茶色腐植物層、IV層暗黒色腐植物層、V層灰色粘質土が堆積する。調査の掘削可能深度において、遺物包含層や遺構確認面は確認できなかった。

(3) 遺構と遺物

遺構・遺物ともに確認されなかった。

(4) 調査のまとめ

堆積する土層から、調査対象区域周辺は低湿地であったことが想定される。工事による掘削深度内には遺跡は確認できず、埋蔵文化財への影響はないものと判断できる。

第Ⅳ章 ま と め

1 令和5年度調査について

令和5年度は、民間開発と排水路改良工事に伴い2遺跡を対象とした確認調査を実施した。ともに平野部の沖積地に立地している。以下、各遺跡の成果と課題を記す。

釜淵遺跡 調査対象区域は平成6年発掘調査区の南西に隣接することから、遺跡の拡がりを想定し、上・下層の遺物包含層に留意しながら確認調査を行った。各トレンチの土層は腐植物層の堆積が顕著で、深度約1.5mの中では遺物包含層、遺構確認等は認識できなかった。周辺一帯が低地で湿潤な地形環境であったと考えられる。

鬼倉遺跡 本遺跡は下条川右岸に沿って、長さ1kmを越える範囲で周知化された大規模な遺跡である。今回の調査対象区は遺跡の北東端部にあたる。許容された掘削深度約1m内では遺構、遺物は確認できなかった。各トレンチの土層は腐植物層が堆積し、周辺一帯が低地で湿潤な地形環境であったことがうかがえた。

今年度調査対象となった上記2遺跡は、既往の発掘調査があり、ともに多量の遺物が出土している。釜淵遺跡は古墳時代前期と後期、鬼倉遺跡が平安時代の本地域では中心的な遺跡に位置付けられる。今回報告した調査では何も出土していないが、ひとつひとつの調査を積み上げていながら、今後の開発行為との協議にも活用可能な情報を得ることが肝要と考えている。

引用・参考文献

- 伊藤秀和 2001 『加茂市文化財調査報告(13) 鬼倉遺跡』 加茂市教育委員会
伊藤秀和 2016 「第5章 第1節 8 釜淵遺跡」『加茂市史 資料編4 考古』 加茂市
尾崎高宏 2016 「第3章 第2節 2 釜淵遺跡」『加茂市史 資料編4 考古』 加茂市
加茂市史編集委員会 2016 『加茂市史 資料編4 考古』 加茂市
川上貞雄・長谷川昭一ほか 1987 『加茂市文化財調査報告(3) 東部地区遺跡詳細分布調査報告書 ～国営加茂東部地区総合農地開発事業周辺地域～』 加茂市教育委員会

写真図版



調査地近景（南から）



調査地近景（西から）



1 トレンチ 調査風景（北東から）



4 トレンチ 調査風景（北から）



1 トレンチ 土層断面（南西から）



2 トレンチ 土層断面（南西から）



3 トレンチ 土層断面（南西から）



4 トレンチ 土層断面（南西から）



調査地近景（北から）



調査地近景（北西から）



2 トレンチ 調査風景（北東から）



4 トレンチ 調査風景（東から）



1 トレンチ 土層断面（北西から）



2 トレンチ 土層断面（北西から）



3 トレンチ 土層断面（北西から）



4 トレンチ 土層断面（北西から）

報告書抄録

ふりがな	かもしないいせきかくにんちようさほうこくしよ							
書名	令和5年度 加茂市内遺跡確認調査報告書							
副書名								
巻次								
シリーズ名	加茂市文化財調査報告(37)							
編著者名	伊藤秀和							
編集機関	加茂市教育委員会 社会教育課							
所在地	〒959-1392 新潟県加茂市幸町2丁目3番5号 TEL 0256(52)0080							
発行年月日	西暦 2024年7月31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 ° ' "	東経 ° ' "	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号					
釜淵遺跡	加茂市新栄町 1904番	15209	103	37度 39分 53秒	139度 02分 23秒	20230405	30	民間開発 (宅地造成)
鬼倉遺跡	加茂市大字下条 字鬼倉 2592番 地1ほか	15209	116	37度 40分 10秒	139度 01分 19秒	20240202	8	農業用排水路 改良工事
所収遺跡名	種別	主な時代		主な遺構		主な遺物	特記事項	
釜淵遺跡	遺物包含地	古墳・古代						
鬼倉遺跡	遺物包含地	古墳・古代						

加茂市文化財調査報告(37)

令和5年度

加茂市内遺跡確認調査報告書

釜淵遺跡

鬼倉遺跡

印刷年月日 令和6年7月25日

発行年月日 令和6年7月31日

発行・編集者 加茂市教育委員会

〒959-1392 新潟県加茂市幸町2丁目3番5号

TEL 0256(52)0080

印刷所 株式会社 小野塚印刷所

〒959-1354 新潟県加茂市新町1丁目5番16号

TEL 0256(52)0056